

音楽教育のススメ

41

アメリカのコンサヴァトリー（音楽院）について 〈ジュリアード編〉

みなさま、こんにちは。シリコンバレーでピアノ教室を主宰している、有座なぎさです。「音楽教育のススメ」と題したコラムを毎月第四週目に担当させていただいています。

これまで、一般大学の音楽プログラムについて、ダブルメジャーで学べるプログラムについては、このコラムで取り上げてきましたが、音楽の単科大学である、Conservatory（コンサヴァトリー、音楽院）については、取り上げる機会がありませんでしたので、これから数回に渡り、コンサヴァトリーの紹介をしていきたいと思います。

今回は NY にあるジュリアード音楽院についてです。ジュリアードという名前は、音楽にあまり詳しくない人でも知っているほど、有名なコンサヴァトリー（音楽院）ですね。音楽院というと、日本人の感覚としては、どこか専門学校的な、きちんとした大学という教育機関でないような印象を与えがちですが、アメリカのコンサヴァトリー（音楽院）は、立派な大学です。ミュージック・コンサヴァトリーは、日本でいうところの音楽大学となります。

受験に際しては、一般大学と同じように、SAT/ACT などのテストスコアも提出しなくてはなりませんし、GPA や高校からの推薦状なども必要です。卒業時には、学位も取得できます。The Juilliard School には、音楽科の他に、ダンス科とドラマ科があり、音楽科と同じビルを共有しています。

ジュリアードの校舎は、NY マンハッタンの一等地、リンカーンセンターの中に立地しており、NY フィルの本拠地である David Geffen Hall、NYC バレエの Koch Theater、メトロポリタン・オペラハウスなどが隣接しているという、まさにパフォーミングアーツの拠点としてこれ以上ないほど、恵まれた環境です。また、ジュリアード音楽院の隣には、Alice Tully Hall があり、さまざまな音楽会の他、コロナ禍以前は、卒業式もここで行われていました。

ジュリアードの音楽科の生徒総数は、約 600 人で、この中には、アンダーグラッド（学士過程）、マスター（修士課程）、AD（アーティスト・ディプロマ）、ドクトラル（博士課程）などが含まれています。ジュリアード音楽院に入学するためには、他の音楽大学や一般大学と同じように、大学受験のプロセスを経なくてはなりませんが、その中でも最も比重が大きいのが、やはり実技試験です。（音楽大学の実技試験については、同コラムの第 13 回～15 回で詳しく記載していますので、ご興味のある方は是非こちらをご覧ください）毎年の合格率は、5～8%で、カーティスの 4%（2021 年）には及ばないものの、NEC（New England Conservatory）の 36.3%（2021 年）に比べて、はるかに難関です。2021 年度の学費は、\$51,230、寮費などの諸費用を全て合わせると、8 万ドル以上かかります。これは、他の私立音楽大学と比べて、NY のマンハッタンという立地を考慮しても、特別に高額というわけではありません。

ジュリアードの校風を一言で言えば、Competitive。この一言に尽きます。もちろん、世界各国から一流の音楽家になることを目指して、優秀な学生たちが集まるわけですから、それも納得できますが、ピアノや弦楽器専攻の学生たちは、圧倒的に東洋人が多く、日本人もちらほらいます。少し前に日本で話題になった、廣津留すみれ（2016-18、Violin でマスターを卒業。敬称略）もジュリアードの卒業です。卒業生名簿を見ると、作曲家の

一柳 慧、パイオリニストの五嶋みどりや漆原朝子、榎本大進、川久保陽紀、西崎崇子、ピアニストの故中村紘子、小川典子、チェリストのヨー・ヨー・マなど、錚々たる顔ぶれです。

ジュリアード校内には、いくつかのホールがあり、主なりサイタルホールとして、Paul Hall、Morse Hall、その他オーケストラのリハーサルやパフォーマンスが行われる Peter Jay Sharp Theater もあります。また、前述の Alice Tully Hall でコンサートが行われることもあります。

練習室は、ワンフロアに 100 室以上を備え、その全ての部屋にスタインウェイのグランドピアノが備わっています。以前は、練習室に荷物と学生証を入れたまま、長時間、部屋に戻らない学生が多くいて、実際に部屋は空いているのに練習室が使えない、という問題が起きていましたが、現在では、すべてコンピュータシステムにより、部屋の予約から使用時間、またトイレ休憩の時間までキッチリ管理され、練習室の使用が格段に公正になりました。

ところで、読者のみなさんは、ジュリアードが初の分校を中国に設立したのをご存知でしょうか。ジュリアードといえば、1905 年の創立以来 NY・マンハッタンにその拠点を置いてきましたが、昨今の国際コンクールでのアジア勢の躍進を受け、また中国からの留学生数が増え、国・地域別で長らく最多となっていることや、習近平夫人で歌手の彭麗媛（ポン・リーユン）夫人の熱烈なラブコールもあり、2015 年に天津ジュリアード音楽院の設立を決定。2020 年 9 月に開校しました。募集は修士課程生（2 年間）とプレカレッジの二部門のみで、4 年制の学部過程はありません。現在は、音楽科のみの開設に留まっていますが、将来的には、ダンス科やドラマ科の専攻を設ける可能性もあるそうです。

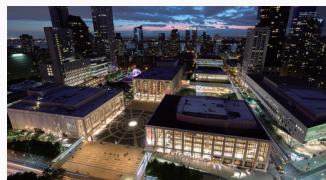
海外初のジュリアード分校の設立で、今後ますますアジア人の勢いが増すことは間違いないでしょう。



中国・天津ジュリアードの校舎
Photo by Zhang Chao



天津ジュリアード内のコンサートホール
Photo by Zhang Chao



Lincoln Center 全体像
写真右端の建物がジュリアード音楽院



NY マンハッタンにある、
The Juilliard School エントランス



有座なぎさ

桐朋学園子供のための音楽教室を経て、東京音楽大学ピアノ科卒業。在学中にウィーンに留学、研鑽を積む。大学卒業後は、(財)ヤマハ音楽振興会の専任講師として現場の指導を行いつつ、講師研修の指導講師として、全国を巡る。また、教材開発にも関わり、ヤマハ 3 歳児ランド、ヤマハコンピュータ教室などの立ち上げに協力した。

93 年に夫の赴任に伴い渡米。渡米後は、ペイエリア各地でピアノ・リサイタルを行う他、フロントセンターにて、オーケストラとも共演、好評を得る。現在は音楽教室を主宰し、コンペティション・オーディションなどに受賞者多数を輩出する。二児の母。長男は、NY のコロンビア大学(CS専攻)とジュリアード音楽院(ヴァイオリン専攻)の大学院を卒業後、カーネギーメロン大学にて、二つ目の修士号(Master of Entertainment Technology)を取得。長女は、長男と同じ、コロンビア・ジュリアード Exchange Program に入学後、コロンビア大学(CS専攻)、およびジュリアード音楽院の大学院(チェロ専攻)を卒業、現在は、ジュリアードの AD(アーティスト・ディプロマ)で学ぶ。

全米シヨパン協会サンフランシスコ支部理事、MTNA、CAPMT メンバー

Web: www.nagisaariza.com | E-mail: me@nagisaariza.com